管谷怜子　府中の森プロジェクト

ベートーヴェン巡礼





RYOKO SUGAYA

レコーディングリサイタル

ベートーヴェンピアノソナタ全曲演奏（全32曲）

公式HP

2027 第3回 1.21（木）

ピアノソナタ第13番変ホ長調作品27-1
ピアノソナタ第15番ニ長調作品28「田園」
ピアノソナタ第9番ホ長調作品14-1
ピアノソナタ第10番ト長調作品14-2

2027 第4回 4.27（火）

ピアノソナタ第1番ヘ短調作品2-1
ピアノソナタ第2番イ長調作品2-2
ピアノソナタ第3番ハ長調作品2-3
ピアノソナタ第4番変ホ長調作品7
ピアノソナタ第19番ト短調作品49-1

2027 第5回 5.12（水）

ピアノソナタ第5番ハ短調作品10-1
ピアノソナタ第6番ヘ長調作品10-2
ピアノソナタ第7番ニ長調作品10-3
ピアノソナタ第8番ハ短調作品13「悲愴」
ピアノソナタ第20番ト長調作品49-2

2027 第6回 6.2（水）

ピアノソナタ第11番変ロ長調作品22
ピアノソナタ第12番変イ長調作品26
ピアノソナタ第14番嬰ハ短調作品27-2「月光」

チケット：5,000円

19:00開演　18:30開場

曲目は予告なく変更することがあります.ご了承ください

クレジット決済

府中の森芸術劇場ウィーンホール

〒183-0001 東京都府中市浅間町1-2 代表電話：042-335-6211

【主催】㈱クランファーベ企画　☎090-9604-1663
klangfarbekikaku@gmail.com

百聞は一聴にしかず

まずは管谷怜子YOUTUBEチャンネルをお聴きください

管谷怜子名演集　　ベートーヴェンピアノソナタ全曲演奏プロジェクト

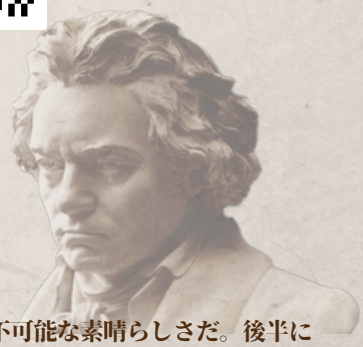






RYOKO SUGAYA

YouTube



管谷怜子のベートーヴェン演奏に寄せられた声

猛烈なアゴーギク、テンポ・ルバートの数々。かのバックハウスやエリー・ナイに喧嘩を売るどころか、その巨匠らを背負い投げするような強烈なベートーヴェンだった。こんな人が日本に隠れていたのが分からない。(N.Sさん)

「圧倒される技術の素晴らしさ、ダイナミックレンジの広さ、間（ま）への感受性の豊かさ、そして絶妙なテンポの揺れ、おそらく本人は意識せずに自然に弾いているだけだと思うが、その感性はとても素晴らしい。　(Y.Dさん)

ワルトシュタインのアイデアの一つ一つが伝わるすごい演奏でした。初期の作品もこれほど面白いとは驚きです。　(K.Fさん)

全て素晴らしかったが、特にワルトシュタイン3楽章、中間部の低音オクターブと高音分散和音の箇所からがまさに人跡未踏。経験したことのないベートーヴェン。大好きなシンコペーション箇所から最後プレストになって、凄いオクターブグリッサンドからトリルにのったテーマ…まさに天上の音楽。そのあとは怒涛の終曲。ブラボーこんなワルトシュタイン聴かされてもうほか聴けないよ。　(M.Eさん)

前半は超絶名演奏。後半のワルトシュタインは、ブルックナーの交響曲並みの巨大さでした。　(Y.Tさん)

「いきなり心臓を掴まれました。表現不可能な素晴らしさだ。後半に演奏されたピアノソナタ「悲愴」「月光」「熱情」と進むにつれて、高まる感動を持て余すほどだった。「美しいものは、諸君を黙らせます。美には、人を沈黙させる力があるのです」こんな経験をすると、小林秀雄の言葉がしみじみと分かります」(K.Mさん)

史上最も大胆なワルトシュタイン　管谷怜子のベートーヴェン
一大交響曲か？　英雄交響曲かの様な威容！誰一人弾いたことがないワルトシュタイン。天に向かって人類を代表した宣言にも聞こえた　決然とした響　本人も、どこまで大きくなるのか。初のベーゼンドルファーから構築したソノリティー（響）だ。　(K.Yさん)

地響きのような低音域は会場全体を揺らし、高音域はまるで星が降るように煌びやかに会場を彩っている。
ここで、急に速度を落とすのかという弾き方に何度か遭遇し、その見事さには思わず顔を横に振り胸に手を当て、高ぶる感情を抑えた。もはや彼女は押し引き、感情の揺さぶりの天才だ。まるで会場が呼吸しているように、音楽そのものが譜面のなぞりではなく、その場で産まれ、形成されてゆくのを間近で感じ取ることが出来る。まるでホール全体を使った巨大な楽器のようにも思えた。　〔K.Iさん〕



管谷怜子 Ryoko Sugaya

【プロフィール】福岡市出身。世界的ピアニストである故野島稔氏に師事し桐朋学園大学大学院修了。慶應義塾大学文学部（美学美術史学専攻）卒業。ウィーン音楽コンクール特別賞受賞。2007年FFGホールにてソロデビュー。各地でソロリサイタルを開催しつつ、ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団、九州交響楽団と共演。2012年から2024年まで取り組んだJ.S.バッハ鍵盤楽器作品の全曲連続演奏会は、音楽家としての揺るぎない信念を示す壮大な試みとして注目される。2022年までピアノ教室と九州大学で後進の指導に当たっていたが、現在は演奏活動に専念。2023年福岡で管谷怜子後援会「日時計の丘」が発足。2024年40代でCDデビュー。二つのCDアルバムが「ANAクラシックチャンネル」でオンエアされる。2025年よりベートーヴェン没後200年の2027年に向けて「ベートーヴェン巡礼2027：ピアノソナタチクルス(全32曲)」連続演奏会に取り組んでいる。音楽と真摯に向き合う姿勢に共感する熱烈なファンが増え続けている。